

子育て支援で意見交換

三島で実践交流会

シニア世代「孫育て」を紹介

県内の民間子育て支援団体でつくる実行委員会と県は7日、「子育て支援実践交流会」を三島市のみしまプラザホテルで開いた。県東部のNPOやグループ、行政、企業などで子育て支援に携わる人たち約100人が参加した。支援活動を安定的に進める方策や母親たちのニーズのとらえ方、企業とコラボレーションする手法、シニア世代による「孫育て」の在り方などについて意見を交わした。



紙風船遊びを体験し、「地域の孫育て」について考える参加者
＝三島市本町のみしまプラザホテル

交流会は本年度スタートし、県東部では初開催。支援者同士のつながりを深め、地域での豊かな子育て環境づくりを目指す。会場ではテーマ別交流会や全体会、各種助成事業の紹介を行った。

テーマ別交流会は3グループに分かれて課題を話し合った。孫育てをテーマにした交流会では、NPO法人日本沼津災害救援ボランティアの会の石川学副理事長の手ほどきで、紙風船や折り紙などの昔遊びを体験し、子どもや親世代とのコミュニケーションの取り方を学んだ。

企業とタイアップした子育て支援活動を考える交流会では、のみしまプラザホテルと富士地域の母親グループ「母力向上委員会」がそれぞれ、実践例を紹介した。